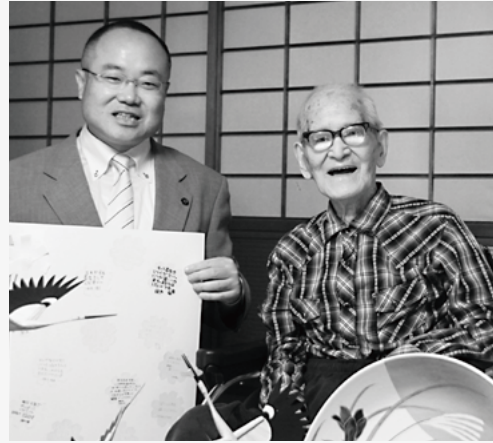
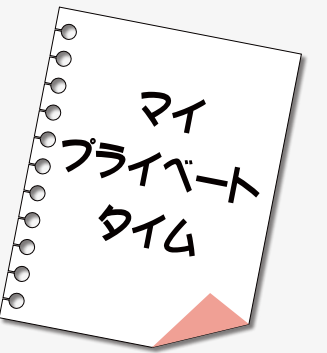


随想 - 命こそ宝。喜びを深める

なかがやま やすし
きょうたんご 京丹後市長(京都府) 中山 泰
Yasushi Nakayama



敬老の日、男性世界最長寿の木村次郎右衛門さん(115歳)を表敬訪問

絆を重ねていた
き今の自分の生が
あることに気付か
されます。それ故
にも、一つの命には
数え切れないほど
の命の祖先の個性、
特性のきらめきが
限りなく宿され、
たとえ厳しい境遇
の最中にあれ人に

生い立ち

私が生まれ育った京丹後市は、京都府そして近畿地方の最北端にあり、昔から絹織物「丹後ちりめん」が盛んで今も日本一の絹生地生産を誇り、豊かな自然環境に囲まれた素晴らしいまちです。

子どものころはプロ野球選手になりたかったのですが、京都府下の学校ではなく不思議と奈良・天理高校の野球が好きで、絶対に行くんだと入学して、後にプロ野球でも活躍する鈴木康友君、福家雅明君など同級生もいて在籍中チームは4度の甲子園大会出場を果たしましたが、僕自身は下手で試合メンバー入りには全然届



世界ジオパークにも認定されている市内の海岸線(久美浜湾)

は誰でも生みの父母があり、父母はまた同じくそれぞれの父母が……という命のご縁のつながりの中で、千年前も……百万年前でも命のつながりのご縁は途切れていません。命の縁がどこかで途切れていけば当然現在はなく、今の人間の形ではなかったでしょうが1億年前ですらそうで、はるか悠久からの連綿とした命のつながりの気の遠くなるほどの蓄積として今があります。単純で厳然とした事実ですが、このことに想いをちよつと寄せるだけでも、一個の「生」をいただいで今ここに在ることの、文字通りの有り難さ、尊さ、そして喜びを、ことのほか深くよく感じられます。

そして同時に、人ひとりの命、「生」には、その誕生までに10世代300年さかのぼるだけでも約千人(2の10乗)、20世代6000年で約10万人、30世代千年だけで約1億人……。このように膨大な数の祖先の命の

きませんでした。

一浪の後に入学させていただいた京都大学でも好きな野球を続けることができ、野球の練習に打ち込ませていただいた青年時代でしたが、さまざまなご縁に恵まれながら一生懸命に取り組めたことがその後の貴重な糧となっており感じています。

大学卒業後は、当時、中曽根行革により再編・誕生したばかりの、総務庁・総理府に入り、以降、他省庁での経験とともに、国の公務員定員・組織管理、地方分権、規制緩和、行政手続法策定などの行政改革や沖縄の振興開発の仕事を中心にさせていただいていました。

国家公務員時代の最後の仕事は、規制改革。盛時の構造改革特区とも連携していたので、最近の地方は色々と面白いことができるんだなど関心を持っていましたが、そのタイミングで、郷里の京丹後市が市町村合併で誕生し、地元の仲間の方から真剣に声を掛けていただいたのが、現在の市長の立場につながるきっかけです。

命と宝

公務員時代、沖縄に2年間在住、その後、小渕内閣で沖縄開発庁長官(井上吉夫、野中広務、青木幹雄)の事務秘書官として



「日本の稲作りが初めて始められた」とする神話の舞台となった「月の輪田」

はいつも「無限の可能性」があると率直に思います。一つの人の命は、かけがえのない尊さの中で、限らない可能性に光り輝いています。

喜びの宝

そんなことを自然に想うようになって、人にとって人生で何を「する、為す」のかはもちろん大事ですが、それ以上に、人として「ある」「今ここに在る」というだけで、この上なく尊く、喜ばしく感じるようになりまし。今ここに在る」という奇跡のような喜びを、深い感謝とともに大切にしていきたい。そして、日ごろ、気づかないだけで、実は、既に人の足元には本当に考えきれないほどの「喜びの種」の原石に満ち満ちていて、日々のいろんな出来事、難楽苦甘の一つ一つを宝の原石と大切に受け止めて、その中の宝に気づ



市内の野球試合で旧友の鈴木康友氏と対決する著者(写真上:投手)。鈴木康友氏(写真左下)。江本孟紀氏、萩本欽一氏と(写真右下)

お伝えしました。当時は米軍基地問題が全国的に大きく取り上げ始められ、今は混沌に戻っていますが、政権として普天間問題に一定の道筋をつけてきた時期であり、厳しい状況の中での仕事でしたが、ただ中であって国家、政治とは、他方で人の命とは、あるいはone for all、all for oneとの両立とは、などいろいろ考えさせられる時期でもありました。

そんな中で、私の好きな沖縄の言葉の一つが「命と宝」。文字通り「命こそ宝」という意味です。「命」に関連していつも思うことは、ひと

き、磨き、また、育んでいく努力こそ宝に、と未熟な自己の督励に努めています。

京丹後市も、あふれる宝に満ちています。海岸全域が国立・国定公園、市全域が山陰海岸・世界ジオパークに認定され、豊富な温泉、特A級のお米、果樹、間人ガニ・久美浜カキなどの農水産物に恵まれるなど、海・山・里はじめ豊かな「環境」。

また、115歳国内最長寿・男性世界最長寿の木村次郎右衛門さんはじめ百歳長寿の方が全国平均の3倍近く在住される、煌く「健康」「長寿」。そして、丹後は「日本のふるさと」の一つ。日本海側三大前方後円墳など貴重な古墳や最古級の製鉄や水晶玉工場などものづくり遺跡があり、現代丹後の機械金属生産や絹織物につながる「日本のものづくりのふるさと」。

くにつくりに登場される豊受大神が初めて稲作を始められた「日本の稲作発祥のふるさと」伝説も伝承され、古代草創期に独自の先進文化をもった「丹後王国」が栄えたといわれています。環境、健康、心の豊饒は、これからの時代が地球規模で求めてやまない価値であり宝。

古代丹後が全国各地に新しい技術や文化を発信し交流に栄えていたように、丹後から新しい時代の豊かな魅力や文化を域内外に発信・交流し、全国の皆さんとともに市民と地域の末永い繁栄を重ねていけることを確信しています。